

| | | | | | |
|---|---|------------------------------|------------------------|---------|------|
| 日本工学院専門学校 | 開講年度 | 2020年度 | 科目名 | 資格対策講座1 | |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 開設学科 | Webクリエイター科 | コース名 | 全コース | 開設期 | 前期 |
| 対象年次 | 1年次 | 科目区分 | 選択 | 時間数 | 30時間 |
| 単位数 | 2単位 | | | 授業形態 | 講義 |
| 教科書/教材 | テキストあり、資料を配布する。問題集・参考書・参考資料等は、授業中に指示する。 | | | | |
| 担当教員情報 | | | | | |
| 担当教員 | 高井麻里 | 実務経験の有無・職種 | 有・カラーデザイナー | | |
| 学習目的 | | | | | |
| デザインに必要な要素である色について学ぶことをベースに色彩検定3級を合格することを目標とする。色彩に関する基礎知識を学び、広く一般的な色彩の実用例を交えながら、色の効用を身につける。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 色彩に関する知識を実習を交えながら学び、色彩検定3級に合格できる知識を身につける。また、ここで学んだ知識をデザインに活かせるようにしていく。 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 授業概要 | テキストに沿って、プリントを使いながら、色の基礎を学んでいく。同時に過去問題を解くことで、実践的な試験対策を行う。 | | | | |
| 注意点 | 指定されたテキストとカラーカードを準備すること。授業では問題を解くので間違えた問題の復習をしておくこと。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。 | | | | |
| 評価方法 | 種別 | 割合 | 備 考 | | |
| | 資格試験 | 60% | 資格試験の可否を評価する | | |
| | 小テスト | 20% | 授業内容の理解度を確認するために実施する | | |
| | 平常点 | 20% | 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する | | |
| | | | | | |
| 授業計画（1回～15回） | | | | | |
| 回 | 授業内容 | 各回の到達目標 | | | |
| 1回 | ガイダンス | デザインにおける色の重要度を理解する | | | |
| 2回 | 生活と色 | 日常生活で色の理論が応用されている例を理解する | | | |
| 3回 | 光と色 | 分光分布のグラフについて理解する | | | |
| 4回 | 視覚系 | 色の見える条件について理解する | | | |
| 5回 | 照明 | 照明について理解する | | | |
| 6回 | 色の表示 | マンセル表式系や色の分類について理解する | | | |
| 7回 | 色彩調和 | 自然界の色のルールから配色理論を理解する | | | |
| 8回 | 配色イメージ | 色の感情効果と三属性について理解する | | | |
| 9回 | ビジュアルデザイン | PCモニター色とカラー印刷色の基本について理解する | | | |
| 10回 | ファッション・プロダクト | 配色技法をファッションやプロダクトに応用することができる | | | |
| 11回 | インテリア・エクステリア | 配色技法をインテリアやエクステリアに応用することができる | | | |
| 12回 | 慣用色名 | 色の名前について理解する | | | |
| 13回 | 過去問題を解く① | 本番同様に問題を解き合格へ近づける | | | |
| 14回 | 過去問題を解く② | 本番同様に問題を解き合格へ近づける | | | |
| 15回 | 過去問題を解く③ | 本番同様に問題を解き合格へ近づける | | | |